

手術後長期経過した側弯症患者におけるアンケート調査の報告

聖隷佐倉市民病院 整形外科

赤澤努、小谷俊明、南昌平

【はじめに】

側弯症の手術は、主に 10 歳代から 20 歳代などの若年で行われています。そのため、側弯症の手術後について長期的に経過観察をすることは重要です。今までの調査報告は患者年齢が 30 歳代までの結果であり、その後に 40 歳から 50 歳の中年期を迎える方についての結果は、よくわかっていませんでした。

そのため、手術後に長期経過し中年期を迎えた側弯症患者の方にアンケート調査を実施しました。

【調査方法】

1968 年から 1988 年に千葉大学医学部附属病院にて、側弯症の手術を受けた 303 名の患者さんについて調査しました。これら患者さんに今回アンケートを郵送し調査を行いました。アンケートでは、側弯症や腰痛に関する質問、職業、結婚、出産状況などを調査しました。

比較のため、側弯症でなく脊椎手術を受けたことのない同世代の一般ボランティアに同様のアンケート調査を実施しました。

【アンケートの結果】

アンケートに対する返答は、回答者は 80 名（男性 7 名、女性 73 名）で回答率 26.4%でした。側弯症の手術後 21 年から 41 年経過し、40 歳から 50 歳代が中心となり高年化していました。職業については、無職（主婦を含む）30 例、パートタイム 16 例、軽作業 19 例、中等度労働 9 例、重労働 2 例でした。68.8%において結婚しており、結婚年齢は平均 26.9 歳で、女性の方は平均 1.6 人の子供を出産していました。体の見た目については、一般の方と比べると側弯症患者の方が気にされていました。一方で、背中の痛みやメンタル面、腰痛に関しては、手術後の側弯症患者は一般の方と同じでした。

まとめると、手術後の側弯症患者においては長期的にも良好な健康状態が得られているといえます。多くの方が仕事や結婚をされ、一般の方と同様な日常生活を送っていました。

【今後の調査について】

今後の課題は、年齢が 60 歳～70 歳代になった場合の更なる長期的経過観察や、レントゲンに関する調査を行うことです。このような調査を行うことにより、これから側弯症手術を受ける患者さんのためになり、側弯症治療の発展に貢献することができます。

聖隷佐倉市民病院では、側弯症外来を行っています。いま治療を受けている方だけでなく、以前に千葉大学病院や千葉東病院で治療された方の長期的な経過観察も行っています。

今回調査を受けられた方のレントゲン調査を行っておりますので、是非受診をお願いします。また、引っ越しされてアンケートが届かなかった方や、今回のアンケート調査に参加できなかった方の受診も歓迎いたします。下記にご連絡の上、是非ご来院ください。

聖隷佐倉市民病院 整形外科 側弯症外来

外来日	毎週水曜日
受付時間	8 時 00 分～15 時 30 分
診療時間	13 時 00 分～16 時 30 分
電話	043-486-1151